

「伝えたい まどかのこと」 ～訪問サービス編～

夜の利用者さんは日中とはまた少し違った表情を見せてくれます。

日中に楽しそうにお話をされ笑顔を見せていた方も、暗くなってくると、「そろそろ帰ろうかな」と言ったりします。私たちの声掛けて落ちつくこともあれば、納得できない方、帰れないことに怒る方もいらっしゃり、時にはご家族に電話でお話していただきます。日中過ごしている場所にそのまま泊まるので認知症のある人に多いリロケーションダメージが少ないのが小規模多機能の特徴で、たいていはそのうち落ち着かれますが、物事を理解するのはなかなか難しいようです。

宿泊時は日中より人数が少ないせいか、普段は手を出すのを遠慮している方が、夕食のお皿洗いを手伝ってくれたり、色々な表情の利用者さんが見られるのも夜勤の魅力です。

(多機能ホームまどか／高岡岳人)



まどかで働き始め3年半。育児も少し落ち着き、夜勤を始めることにしました。

日中の様子は知っていても夜一人で対応するのは初めて…。ドキドキしながら迎えた初夜勤!利用者さんはなんと、戦時中にお嫁に来て、戦後生き抜いた“たくましい”という言葉がぴったりのAさん!!日中は寝ていることも多い方ですが、夜になると動き出します。ご家族は「夜の大運動会」とおっしゃっていましたが、その言葉がぴったり。私はご自宅と同じように自由に動いてもらい、危険がないか見守ります。立つことのできないAさんは、床に座ったまま手で移動します。クルッとなんとも器用に方向転換して別のルートへ。「まどか～」「まどか～」と大きな声で呼ばれ、私の顔を見るとえくぼをみせて「なんか食わせてくれよ～」と。パンをお渡しすると、2つに分けて両手で持ち食べ始めます。おいしそうにゆっくりと。食べ終わると「運動会」を再開。そして朝方に自ら布団に戻ってぐっすり眠られていました。

気が付いたら終わっていた、初めてのまどかでの夜勤。家での生活を垣間見られたようで、楽しかったです。



イラスト／細井美風

(多機能ホームまどか／増子仁美)